

★ 検査依頼医師よりご説明の後、患者様にお渡しいただき検査終了まで保管して下さい ★

放射線検査の医療被ばくに関する説明

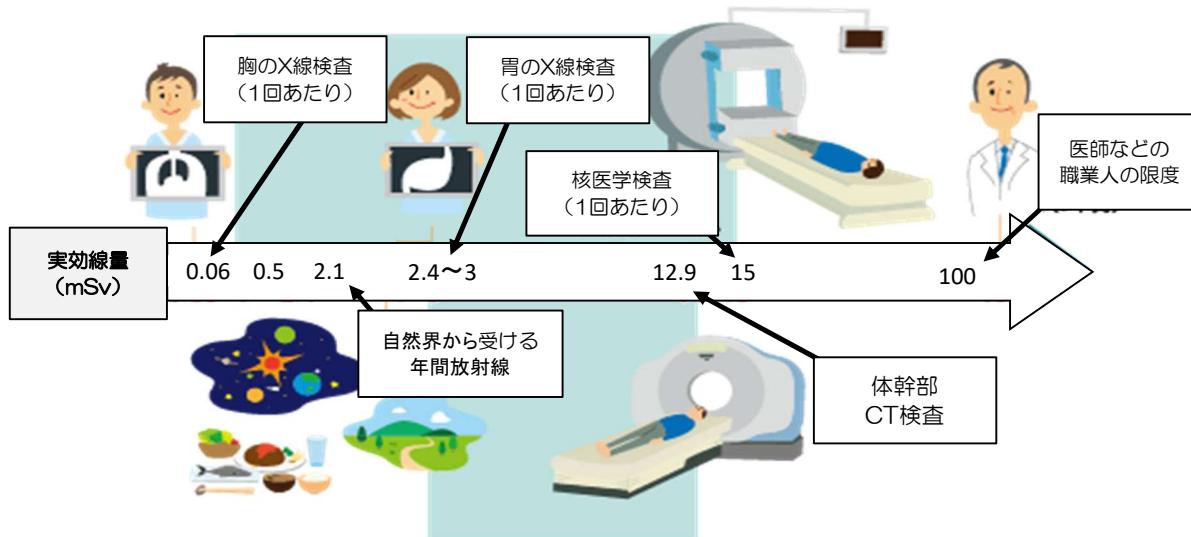
◎ 放射線検査の正当化（必要性）について

- CT検査はドーナツ型の装置で、放射線を用いて検査部位の輪切りの画像を得ることができます。
- 病気の発見や診断、治療方針の決定などに対して重要な情報が得られます。
- 放射線を用いた検査は、被ばくによる不利益よりも、検査によって得られる利益の方が十分に大きいと判断される場合に実施します。

◎ 想定される被ばく線量とその影響

※ ミリシーベルト (mSv) : 放射線量の単位

- 一般的に、100ミリシーベルト以下の放射線被ばくによる影響はほとんどないと考えられています。
- 放射線は無害ではありませんが、実際には大気汚染・生活習慣（喫煙・大量飲酒・運動不足）・ストレスなど、日常生活の様々な影響の方が大きく、CT検査での放射線による発がん率の増加は確認されていません。



◎ 被ばく低減に向けた当院の取り組み

当院では、関連学会のガイドラインをもとに最適な条件で検査を行い、放射線による被ばくを必要最小限にすることを実践しています。また、検査によって受けた被ばく線量を記録・管理し、関連する職員に対して医療放射線に関する研修を行っています。

	一般的なCT検査 ^{※1}	当院のCT検査	
	被ばく線量 : mGy	被ばく線量 : mGy	実効線量 : mSv
頭部	85	56	1.8
胸部（1相） ^{※2}	15	5	3.1
上腹部～骨盤部（1相）	20	11	8.3
胸部～骨盤部（1相）	18	10	11.2
肝臓ダイナミック（多相）	15	8.9	8

※1：一般的な線量とはガイドラインに記載された被ばく線量をさします

※2：「相」は撮影を何回繰り返しあなうかを指し、「多相」は撮影を2～3回繰り返しておこなうことを指します